

## コロナ禍の辺野古座り込み

北村 静男（70歳・名護市在住）

私は、2016年4月、40年以上営んできた車の板金塗装の仕事を廃業した。アベノミクスは、小さな自営業者にとっては何の恩恵もなく結果的に廃業のきっかけになった。廃業し時間が出来たことで、以前から時々行っていた辺野古キャンプ・シュワブゲート前の座り込みへも頻繁に参加するようになった。縁あって、名護市源河に借家が見つかり、2017年2月、単身移住し現在に至る。移住したての頃は、そのために移住したのだからと毎日座り込みに参加した。しかし、どんなに座り込んでも機動隊に「ごぼう抜き」され、土砂を積んだ工事車両やミキサー車が日に何百台も入るのを止めきれない現実について私は体力的にも精神的にも疲れきってしまった。現地の方の助言もあり、今は週2～3日にし、体と心をリセットする日を設けることにした。燃え尽きない為に必要な事だと教えられた。

さて、ゲート前の近況だが、4月に基地内で働く作業員に新型コロナウイルス感染者がいることが判明し、工事は約2ヶ月間停止した。6月15日に再開され、今までの遅れを取り戻すかのように連日多くの工事車両が搬入されている。一般車両は交通課が誘導しているが、車列は第二ゲートまで繋がり、国道329号は大渋滞を引き起こしている。加えて言うなら、南向き車線は工事車両のせいで相当傷んでいる。



コロナ禍の座り込みでは、機動隊との接触を避けるため、私たち市民

は各自のタイミングで自主的に立ち上がり移動している。強制排除よりもこの方が長く車両を止められた事もあった。ゲート前の警備に当たるテイケイの警備員は、市民が再三マスク着用を要請しても着用しない。最近、マウスシールドを着けるようになったが、彼らは大声を出すのでその効果は疑問だ。更に問題なのは、7月下旬から半数ほどの警備員が胸に小型ビデオカメラを装着し始めた事だ。警察が撮影するのも違法なのに、民間警備会社が一般市民を

撮影するなど完全に違法行為で絶対に許せない。余談だが、多くの警備員が基地内のプレハブで共同生活をし、配置に着く前に「エイエイオー！」と気合を入れてやって来る。まるで軍隊の様だと私は思っている。

愚かな政府が「Go to トラベルキャンペーン」を前倒しし、沖縄



にも多くの観光客が押し寄せ、コロナ感染が大変な勢いで拡大した。玉城知事は独自の緊急事態宣言を発出し、それを受けてゲート前も各団体としての座り込みは中止を余儀なくされた。しかし、違法工事は続いており、今は数人の市民が自主的に座り込みを続けている。そうせずにはいられないからだ。悔しいが今日も工専用ゲートから100台以上、安和棧橋と塩川港からも船でダンプ400～500台分の赤土土砂が運び込まれた。大手ゼネコンを肥やし続けるために税金を投入して行われる一大公共事業に怒りがこみ上げてくる。

沖縄防衛局は、県がコロナ対策に追われる最中に出来もしない軟弱地盤の改良工事のために「設計概要変更申請書」を提出した。私たちの税金が投入される以上、誰もが利害関係者だ。玉城知事に設計変更は不承認とするよう多くの方から「意見書」を届けて貰いたい。

これからも、沖縄に関心を寄せ共に行動して行きましょう。

### 「変更承認申請書」の「意見書」を出しましょう

防衛局は、工事の変更に伴い知事の承認を受けるために、法律に基づき「設計変更申請書」を提出し、告示・縦覧が始まっています。

期間は、8日(火)～28日(月)の3週間。この期間中、沖縄県は、利害関係人の意見を受け付けますが、利害関係人とは「自らが利害関係人と思う人」で、誰でも意見書を出せます。

知事は、こうした意見書なども参考にして、最終的に承認・不承認の判断をします。

辺野古新基地建設に反対する圧倒的な声を県内・全国各地から届けましょう。

※詳細は、同封の資料をご覧ください。